

西村副大臣ぶら下がり（夜第2回目）概要

日時：平成25年12月9日（月）21:07～21:15

場所：Grand Copthorne Waterfront Hotel

【冒頭発言】

ただ今、ワーキングディナーを終えてきた。ワーキングディナーでは、今晚、明日の段取りについての意見交換を行い、明日は朝8時から残ったテーマについて議論することとなった。明日夜にはシンガポールを発つ閣僚もいるので、明日夕方を目途に作業を進める。

今日は知的財産からいくつか議論を行ったが、かなりの論点が残っている。国有企業、政府調達等、まだ議論があると思う。論点整理をして、どこまで歩み寄れるかを一つ一つ詰めているのでかなり時間がかかる。日本は、ルールでは基本的に高いレベルを実現しており、日本企業が海外で事業展開していく上で投資、知的財産を保護していくためにも攻める分野であるので、私からも発言し、全体として日本にとってはいい方向で議論しているので日本として心配する必要はない。ただ、対立点もあるのでそれらについても日本経済にとってプラスになる規定を盛り込んでいきたい。明日は、まだ対立点は残っているので整理に主眼がおかれる。夕方を目指して一定の方向性を出すべく、とりまとめに向けて閣僚レベルだけではなく、交渉官も今日から明日にかけて相当詰めて議論をすることとなる。

【質疑応答】

（記者）日米の協議についても明日の夕方までにまとめるのか。

（西村副大臣）日米は立ち話を含めていろいろなやり取りをしているが溝は埋まっていない。明日までにまとめるのは難しいが引き続き、事務レベルも含めて継続して協議をする。一定の方向性が見つかれば、もう一度フロアマン代表と会うことになると思うが、まだその目途は立っていない。

（記者）日米の関税協議が明日まとまらない場合には、年内に引き続き議論するのか。

（西村副大臣）まとめるべく努力をしたいが、TPP全体がどのような形で明日の夕方にごう取りまとめるか如何によるので、まだ何とも言えない。

（記者）日米で難航しているのは自動車の問題を含めてか。

（西村副大臣）詳しい内容は言えないが、国会決議の農産品5品目の取り扱いや車の並行交渉の二つが中心というのはその通り。

（記者）日米協議を除いた他の分野で合意を取りまとめるということはあるのか。

（西村副大臣）ルールで日本にとって有利な部分をできるだけ合意していければいいと思うが、全体として対立点が残っているのでまだ、明日、全体が取りまとめられるかは予断を許さない。

(記者) 日本としては弱点である関税協議のみ残ることもあるのか。

(西村副大臣) 各国とも物品マーケットアクセスについては二国間で積み上げているので、今日の全体会で物品マーケットアクセスは話題に上っておらず他国の状況は分からない。日本の関税の問題だけが残ることはありえない。ルールもかなりの分野が残っており、各国の物品マーケットアクセスについても全く見えていないので、明日の段階でどういう状況になるのかわからない。

(記者) 明日の段階で妥結をするのは難しいと思えるが。

(西村副大臣) 日米の懸案事項については引き続き事務レベルでも議論しており、糸口を見つけながらできるだけ努力をしたい。現実問題、厳しい交渉であり、まだ隔たりは縮まっていないので引き続き努力したい。今日の印象では、全体のルールでも課題は残っているので全体のとりまとめは予断を許さない。

(記者) 米との交渉で日本から関税割り当ての制度に関する提案をしている事実はあるのか。

(西村副大臣) 交渉の詳しい中身は申し上げられない。新聞報道はよく見ていないが、私が聞いている範囲ではその報道は誤報だ。

(以上)